

安積親王墓

安積親王（728-744）は、日本の第 45 代天皇である聖武天皇の次男でした。皇子は和束で狩猟を楽しみ、都と父の宮を行き来する際にこの地域をよく訪れたと言われています。

安積親王は 17 歳で急に亡くなられた後、和束町に安積親王の墓が築かれ、その冥福を祈るお寺が建立されました。公卿で歌人でもある忠臣の太伴家持（718～785）が悲哀をテーマにした数首の歌を残して彼を追悼しました。その中の一首に和束の名前が記されています。

わが大君 天知らさむと 思はねば おほにぞ見ける 和豆香山

19 世紀後半、中和束の住民が土地を農地に変えるために掘削したところ、この場所で平らかな石や石垣、土器の破片が発掘されました。地域はまだ完全に発掘されていないが、著名人の墓（古墳）であることが判明しています。宮内庁はこの場所を安積親王の墓と定め、丘の頂上に小さな石の鳥居や柵、看板を建てました。和束町では一般的にこの古墳を太鼓山と呼んでいます。

アクセス

和束山の家バス停から徒歩約 5 分。大きな交差点を右折し、最初の角を右折して、標識に

従って畑を通る石畳の道を進みます。和束茶カフェには駐車場があります。